



# ボリューム API メソッド

## Element Software

NetApp  
November 19, 2025

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/ja-jp/element-software-125/api/reference\\_element\\_api\\_cancelclone.html](https://docs.netapp.com/ja-jp/element-software-125/api/reference_element_api_cancelclone.html) on November 19, 2025. Always check [docs.netapp.com](https://docs.netapp.com) for the latest.

# 目次

ボリューム API メソッド	1
詳細情報	2
CancelClone	2
パラメータ	2
戻り値	2
要求例	2
応答例	3
新規導入バージョン	3
CancelGroupClone	3
パラメータ	3
戻り値	3
要求例	3
応答例	4
新規導入バージョン	4
CloneMultipleVolumes	4
パラメータ	4
戻り値	6
要求例	7
応答例	7
新規導入バージョン	8
CloneVolume	8
パラメータ	8
戻り値	11
要求例	11
応答例	12
新規導入バージョン	13
詳細情報	13
CopyVolume (コピーボリューム)	13
パラメータ	13
戻り値	14
要求例	14
応答例	14
新規導入バージョン	15
詳細情報	15
QoS Policy を作成します	15
パラメータ	15
戻り値	15
要求例	16
応答例	16

新規導入バージョン	17
CreateVolume を使用します	17
パラメータ	17
戻り値	21
要求例	21
応答例	22
新規導入バージョン	23
詳細情報	24
CreateBackupTarget をクリックします	24
パラメータ	24
戻り値	24
要求例	24
応答例	25
新規導入バージョン	25
DeleteQoS Policy のように入力します	25
パラメータ	25
戻り値	25
要求例	25
応答例	26
新規導入バージョン	26
DeleteVolume	26
パラメータ	26
戻り値	27
要求例	27
応答例	27
新規導入バージョン	29
DeleteVolumes	29
パラメータ	29
戻り値	30
要求例	30
応答例	30
新規導入バージョン	31
GetBackupTarget	31
パラメータ	32
戻り値	32
要求例	32
応答例	32
新規導入バージョン	33
GetVolumeStats	33
パラメータ	33
戻り値	33

要求例	33
応答例	34
新規導入バージョン	36
GetDefaultQoS の設定	36
パラメータ	36
戻り値	36
要求例	36
応答例	36
新規導入バージョン	37
GetQoS Policy を参照してください	37
パラメータ	37
戻り値	37
要求例	38
応答例	38
新規導入バージョン	39
GetVolumeCount の値	39
パラメータ	39
戻り値	40
要求例	40
応答例	40
新規導入バージョン	40
GetVolumeEfficiency を使用します	40
パラメータ	40
戻り値	41
要求例	41
応答例	42
新規導入バージョン	42
ListActiveVolumes の場合	42
パラメータ	42
戻り値	43
要求例	43
応答例	44
新規導入バージョン	44
ListBackupTargets を参照します	44
パラメータ	44
戻り値	44
要求例	45
応答例	45
新規導入バージョン	45
ListBulkVolumeJobs	45
パラメータ	45

戻り値	45
要求例	46
応答例	46
新規導入バージョン	47
ListDeletedVolumes の場合	47
パラメータ	47
戻り値	48
要求例	48
応答例	48
新規導入バージョン	50
ListQoS Policies の順にクリックします	50
パラメータ	50
戻り値	50
要求例	50
応答例	50
新規導入バージョン	52
ListSyncJobs	52
パラメータ	52
戻り値	52
要求例	52
応答例	52
新規導入バージョン	54
ListVolumeQoSHistograms	54
パラメータ	54
戻り値	54
要求例	54
応答例	54
ListVolumes の場合	56
パラメータ	56
戻り値	58
要求例	58
応答例	58
新規導入バージョン	60
ListVolumeStats の値	60
パラメータ	60
戻り値	60
要求例	60
応答例	61
新規導入バージョン	62
ListVolumesForAccount を実行します	62
パラメータ	62

戻り値	62
要求例	63
応答例	63
新規導入バージョン	65
ListVolumeStatsByAccount	65
パラメータ	65
戻り値	65
要求例	65
応答例	66
新規導入バージョン	66
ListVolumeStatsByVirtualVolume	67
パラメータ	67
戻り値	67
要求例	67
応答例	67
新規導入バージョン	69
ListVolumeStatsByVolume を参照してください	69
パラメータ	69
戻り値	69
要求例	69
応答例	69
新規導入バージョン	71
ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup	71
パラメータ	71
戻り値	71
要求例	72
応答例	72
新規導入バージョン	73
ModifyBackupTarget	73
パラメータ	73
戻り値	73
要求例	73
応答例	74
新規導入バージョン	74
ModifyQoS Policy のように変更します	74
パラメータ	74
戻り値	74
要求例	75
応答例	75
新規導入バージョン	76
ModifyVolume の追加	76

パラメータ	77
戻り値	82
要求例	83
応答例	83
新規導入バージョン	84
詳細情報	84
ModifyVolumes の場合に使用でき	84
パラメータ	85
戻り値	90
要求例	90
応答例	91
新規導入バージョン	93
詳細情報	93
PurgeDeletedVolume のこと	93
パラメータ	94
戻り値	94
要求例	94
応答例	94
新規導入バージョン	94
詳細情報	94
PurgeDeletedVolumes の場合	94
パラメータ	95
戻り値	95
要求例	95
応答例	96
新規導入バージョン	96
詳細情報	96
RemoveBackupTarget	96
パラメータ	96
戻り値	96
要求例	97
応答例	97
新規導入バージョン	97
RestoreDeletedVolume	97
パラメータ	97
戻り値	97
要求例	98
応答例	98
新規導入バージョン	98
SetDefaultQoS の設定	98
パラメータ	98

戻り値	99
要求例	99
応答例	99
新規導入バージョン	100
StartBulkVolumeRead	100
パラメータ	100
戻り値	102
要求例	102
応答例	102
新規導入バージョン	103
StartBulkVolumeWrite	103
パラメータ	103
戻り値	105
要求例	105
応答例	105
新規導入バージョン	105
UpdateBulkVolumeStatus	106
パラメータ	106
戻り値	107
要求例	107
応答例	107
新規導入バージョン	108
詳細情報	108

# ボリューム API メソッド

Element ソフトウェアボリューム API メソッドを使用すると、ストレージノードにあるボリュームを管理できます。これらのメソッドを使用して、ボリュームを作成、変更、クローニング、および削除できます。また、ボリュームのデータ測定値を収集して表示することもできます。

- [CancelClone](#)
- [CancelGroupClone](#)
- [CloneMultipleVolumes](#)
- [CloneVolume](#)
- [CopyVolume \(コピーボリューム\)](#)
- [QoS Policy を作成します](#)
- [CreateVolume を使用します](#)
- [CreateBackupTarget をクリックします](#)
- [DeleteQoS Policy のように入力します](#)
- [DeleteVolume](#)
- [DeleteVolumes](#)
- [GetBackupTarget](#)
- [GetVolumeStats](#)
- [GetDefaultQoS の設定](#)
- [GetQoS Policy を参照してください](#)
- [GetVolumeCount の値](#)
- [GetVolumeEfficiency を使用します](#)
- [ListActiveVolumes の場合](#)
- [ListBackupTargets を参照します](#)
- [ListBulkVolumeJobs](#)
- [ListDeletedVolumes の場合](#)
- [ListQoS Policies の順にクリックします](#)
- [ListSyncJobs](#)
- [ListVolumeQoSHistograms](#)
- [ListVolumes の場合](#)
- [ListVolumeStats の値](#)
- [ListVolumesForAccount を実行します](#)
- [ListVolumeStatsByAccount](#)
- [ListVolumeStatsByVirtualVolume](#)
- [ListVolumeStatsByVolume を参照してください](#)

- [ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup](#)
- [ModifyBackupTarget](#)
- [ModifyQoS Policy](#) のように変更します
- [ModifyVolume](#) の追加
- [ModifyVolumes](#) の場合に使用でき
- [PurgeDeletedVolume](#) のこと
- [PurgeDeletedVolumes](#) の場合
- [RemoveBackupTarget](#)
- [RestoreDeletedVolume](#)
- [SetDefaultQoS](#) の設定
- [StartBulkVolumeRead](#)
- [StartBulkVolumeWrite](#)
- [UpdateBulkVolumeStatus](#)

## 詳細情報

- "SolidFire および Element ソフトウェアのドキュメント"
- "以前のバージョンの NetApp SolidFire 製品および Element 製品に関するドキュメント"

## CancelClone

メソッドを使用すると、実行中のボリュームクローンまたはボリュームコピーのプロセスを停止できます `CancelClone`。グループクローン処理をキャンセルすると、処理に関連付けられた `asyncHandle` が完了して削除されます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
クローン ID	進行中のクローンプロセスのクローン ID。	整数	なし	はい

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "CancelClone",  
  "params": {  
    "cloneID" : 5,  
  },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

# CancelGroupClone

メソッドを使用すると、ボリュームグループで実行中のクローンプロセスを停止でき、`CancelGroupClone` ます。グループクローン処理をキャンセルすると、処理に関連付けられた `asyncHandle` が完了して削除されます。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
groupCloneID	進行中のクローンプロセスのクローンID。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "CancelGroupClone",  
  "params": {  
    "cloneID" : 5,  
  },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result" : {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

# CloneMultipleVolumes

メソッドを使用すると、指定したボリュームのグループのクローンを作成できます `CloneMultipleVolumes`。複数のボリュームのクローンを一緒に作成する場合、一連の同じ特性を割り当てることができます。

`groupSnapshotID` パラメータを使用してグループ Snapshot 内のボリュームのクローンを作成する前に、API メソッドまたは Web UI を使用してグループ Snapshot を作成する必要があります [CreateGroupSnapshot を作成します](#)。`groupSnapshotID` の使用は、複数のボリュームのクローンを作成する場合のオプションです。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
アクセス	ボリュームの配列に渡した情報で上書きされない場合の、新しいボリューム用のデフォルトのアクセス方法。	文字列	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
enableSnapMirrorRepllication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい</li> <li>正しくない</li> </ul>	ブーリアン	正しくない	いいえ
groupSnapshotID	クローンのベースとして使用するグループ Snapshot の ID。	整数	なし	いいえ
newAccountId	ボリュームの配列に渡した情報で上書きされない場合の、ボリュームの新しいアカウント ID。	整数	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリューム	<p>新しいボリュームに指定する一連のメンバー。メンバー：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>volumelD</code> : (必須)</li> <li>• <code>access</code> : (オプション) <code>readOnly</code>、 <code>readWrite</code>、 <code>locked</code>、 <code>replicationTarget</code> のいずれか。</li> <li>• <code>attributes</code> : (オプション) JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。</li> <li>• <code>name</code> : (オプション) クローンの新しい名前。</li> <li>• <code>newAccountID</code> : (オプション) 新しいボリュームのアカウント ID。</li> <li>• <code>newSize</code> : (オプション) ボリュームの合計サイズ (バイト)。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。</li> </ul> <p>オプションのメンバーを指定しない場合、値はソースボリュームから継承されます。</p>	JSON オブジェクトの配列	なし	○ ( <code>volumelD</code> )

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
asyncHandle	非同期メソッドの呼び出しで返された値。	整数
groupCloneID	新しいグループクローンの一意の ID。	整数
メンバー	ソースとデスティネーションのボリュームペアのボリューム ID のリスト。	JSON オブジェクトの配列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CloneMultipleVolumes",
  "params": {
    "volumes": [
      {
        "volumeID": 5
        "name": "foxhill",
        "access": "readOnly"
      },
      {
        "volumeID": 18
      },
      {
        "volumeID": 20
      }
    ],
    "id": 1
  }
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "asyncHandle": 12,  
    "groupCloneID": 4,  
    "members": [  
      {  
        "srcVolumeID": 5,  
        "volumeID": 29  
      },  
      {  
        "srcVolumeID": 18,  
        "volumeID": 30  
      },  
      {  
        "srcVolumeID": 20,  
        "volumeID": 31  
      }  
    ]  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## CloneVolume

メソッドを使用すると、ボリュームのコピーを作成できます `CloneVolume`。このメソッドは非同期であり、また完了までの時間はさまざまです。

クローニングプロセスは要求の発行と同時に開始され `CloneVolume`、APIメソッドが発行されたときのボリュームの状態を反映します。メソッドを使用すると、クローニングプロセスがいつ完了し、新しいボリュームを接続できるようになるかを確認できます [GetAsyncResult](#)。を使用すると、クローン作成の進捗状況を確認できます [ListSyncJobs](#)。ボリュームの初期属性と QoS 設定は、クローンの作成元のボリュームから継承されます。これらの設定は、で変更できます [ModifyVolume の追加](#)。



クローンボリュームには、ソースボリュームのボリュームアクセスグループメンバーシップは継承されません。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
アクセス	<p>新しいボリュームに許可するアクセス。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>readOnly</code>：（オプション）読み取り処理のみ許可されます。</li> <li>• <code>readWrite</code>：（オプション）読み取りと書き込みが可能です。</li> <li>• <code>locked</code>：（オプション）読み取りも書き込みもできません。指定しない場合、クローニングするボリュームのアクセス値が使用されます。</li> <li>• <code>replicationTarget</code>：（オプション）ペアリングされている一連のボリュームのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。ボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。</li> </ul>	文字列	なし	いいえ
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON（オブジェクト）	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
enable512e	新しいボリュームで 512 バイトのセクターエミュレーションを使用するかどうかを指定します。指定しない場合、クローニングするボリュームの設定が使用されます。	ブーリアン	元のボリュームの設定	いいえ
enableSnapMirrorRepllication	ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値： <ul style="list-style-type: none"><li>正しい</li><li>正しくない</li></ul>	ブーリアン	正しくない	いいえ
名前	新しいクローンボリュームの名前。 1~64 文字で指定する必要があります。	文字列	なし	はい
newAccountId	新しいボリュームの所有者のアカウント ID。指定しない場合、クローニングするボリュームの所有者のアカウント ID が使用されます。	整数	元のボリュームの所有者のアカウント ID	いいえ
newSize	ボリュームの新しいサイズ (バイト)。クローニングするボリュームのサイズより大きくすることも小さくすることもできます。指定しない場合、ボリュームサイズは変更されません。サイズは最も近い 1MB 単位のサイズに切り上げられます。	整数	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
Snapshot ID	クローンのソースとして使用される Snapshot の ID。ID を指定しない場合は、現在のアクティブボリュームが使用されます。	整数	なし	いいえ
ボリュームID	クローニングするボリュームの ID。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
asyncHandle	処理結果の取得に使用されるハンドル値。	整数
クローン ID	新しいクローンボリュームのクローン ID。	整数
カーブ ( Curve )	クローンに適用された QoS curve 値。	JSON ( オブジェクト )
ボリューム	新しいクローンボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリュームID	新しいクローンボリュームの ID。	整数

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CloneVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5,
    "name" : "mysqldata-snapshot1",
    "access" : "readOnly"
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "asyncHandle": 42,  
    "cloneID": 37,  
    "volume": {  
      "access": "readOnly",  
      "accountID": 1,  
      "attributes": {},  
      "blockSize": 4096,  
      "createTime": "2016-03-31T22:26:03Z",  
      "deleteTime": "",  
      "enable512e": true,  
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.mysqldata-snapshot1.680",  
      "name": "mysqldata-snapshot1",  
      "purgeTime": "",  
      "qos": {  
        "burstIOPS": 100,  
        "burstTime": 60,  
        "curve": {  
          "4096": 100,  
          "8192": 160,  
          "16384": 270,  
          "32768": 500,  
          "65536": 1000,  
          "131072": 1950,  
          "262144": 3900,  
          "524288": 7600,  
          "1048576": 15000  
        },  
        "maxIOPS": 100,  
        "minIOPS": 50  
      },  
      "scsiEUIDeviceID": "6a796179000002a8f47acc0100000000",  
      "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000006a796179000002a8",  
      "sliceCount": 0,  
      "status": "init",  
      "totalSize": 1000341504,  
      "virtualVolumeID": null,  
      "volumeAccessGroups": [],  
      "volumeID": 680,  
      "volumePairs": []  
    }  
  }  
}
```

```

    },
    "volumeID": 680
}
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

- [GetAsyncResult](#)
- [ListSyncJobs](#)
- [ModifyVolume](#) の追加

## CopyVolume (コピーボリューム)

メソッドを使用すると、既存のボリュームのデータコンテンツを別のボリューム（またはSnapshot）のデータコンテンツで上書きできます `CopyVolume`。IQN、QoS 設定、サイズ、アカウント、ボリュームアクセスグループのメンバーシップなどの、デスティネーションボリュームの属性は変更されません。デスティネーションボリュームは、すでに存在している必要があります、ソースボリュームと同じサイズである必要があります。

この処理を開始する前にクライアントでデスティネーションボリュームをアンマウントすることを推奨します。処理中にデスティネーションボリュームが変更された場合、変更は失われます。この処理が完了するまでの時間は状況によって異なります。メソッドを使用すると、プロセスがいつ完了したかを確認したり、[ListSyncJobs](#) コピーの進捗状況を確認したりできます [GetAsyncResult](#)。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
<code>dstVolumeID</code>	上書きするボリュームの ID。	整数	なし	はい
<code>ボリュームID</code>	データを読み取るボリュームの ID。	整数	なし	はい

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
Snapshot ID	クローンのソースとして使用される Snapshot の ID。ID を指定しない場合は、現在のアクティブボリュームが使用されます。	整数	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
asyncHandle	処理結果の取得に使用されるハンドル値。	整数
クローン ID	新しいクローンボリュームのクローン ID。	整数

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CopyVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 3,
    "dstVolumeID" : 2
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "asyncHandle": 9,
    "cloneID": 5
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

- [GetAsyncResult](#)
- [ListSyncJobs](#)

## QoS Policy を作成します

メソッドを使用すると、あとでボリュームの作成時または変更時に適用できるQoS Policyオブジェクトを作成できます `CreateQoS Policy`。QoS ポリシーには、一意の ID、名前、および QoS 設定があります。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
名前	QoS ポリシーの名前。 gold 、 platinum 、 silver などです。	文字列	なし	はい
QoS	このポリシーが表す QoS 設定。	<a href="#">QoS</a>	なし	はい

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
<code>QoS Policy</code> のように表示	新たに作成された <code>QoS Policy</code> オブジェクト。	<a href="#">QoS Policy</a> のように表示

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "id": 68,  
  "method": "CreateQoSPolicy",  
  "params": {  
    "name": "bronze",  
    "qos": {  
      "minIOPS": 50,  
      "maxIOPS": 15000,  
      "burstIOPS": 15000  
    }  
  }  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 68,
  "result": {
    "qosPolicy": {
      "name": "bronze",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 50
      },
      "qosPolicyID": 2,
      "volumeIDs": []
    }
  }
}
```

## 新規導入バージョン

10.0

## CreateVolume を使用します

メソッドを使用すると、クラスタに新しい空のボリュームを作成できます CreateVolume。ボリュームが作成されるとすぐに、そのボリュームを iSCSI 経由で接続できます。

QoS 値を指定せずに作成したボリュームには、デフォルト値が使用されます。メソッドを使用すると、ボリュームのデフォルト値を表示できます GetDefaultQoS。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
access	ボリュームのアクセスモード。このパラメータを指定した場合、サポートされる値はのみです snapMirrorTarget。	文字列	なし	いいえ
accountID	このボリュームを所有するアカウントのID。	整数	なし	はい
associateWithQoSPolicy	指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値： <ul style="list-style-type: none"><li>• true : QoS Policy ID パラメータで指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。</li><li>• false : QoS Policy ID パラメータで指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けないでください。false の場合、QoS Policy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。</li></ul>	ブーリアン	正しい	いいえ
attributes	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。属性の合計サイズは、JSON 形式の文字を含めて、1000 B 未満または 1KB 未満にする必要があります。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
enable512e	<p>512 バイトのセクターエミュレーションを有効にします。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>true</code>：ボリュームは512バイトのセクターエミュレーションを提供します。</li> <li>• <code>false</code>：512eエミュレーションが有効になっていません。</li> </ul>	ブーリアン	なし	はい
enableSnapMirro rReplication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>true</code></li> <li>• <code>false</code></li> </ul>	ブーリアン	正しくない	いいえ
fifoSize	<p>ボリュームでサポートされる FIFO (First-In First-Out) スナップショットの最大数を指定します。 FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。省略した場合、デフォルト値は 24 です。</p>	整数	24	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
minFifoSize	<p>ボリュームによって予約された FIFO (First-In First-Out) スナップショットスロットの最小数を指定します。これにより、FIFO 以外のスナップショットが意图せずに FIFO スロットを過剰に消費しないボリュームで FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットの両方を使用する場合に、保証されます。また、少なくともこの多くの FIFO スナップショットが常に利用可能であることを保証します。FIFOスナップショットと非FIFOスナップショットは同じプールを共有するため、は`minFifoSize`可能な非FIFOスナップショットの総数を同じ量だけ減らします。省略した場合、デフォルト値は 0 です。</p>	整数	0	いいえ
name	ボリュームアクセスグループの名前 (ユーザが指定可能)。固有である必要はありませんが、一意にすることを推奨します1~64 文字で指定します。	文字列	なし	はい
qos	<p>このボリュームの初期 QoS 設定。指定しない場合はデフォルト値が使用されます。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• minIOPS</li> <li>• maxIOPS</li> <li>• burstIOPS</li> </ul>	QoS オブジェクト	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
qosPolicyID	指定したボリュームに適用する QoS 設定が定義されたポリシーの ID。このパラメータは、パラメータと同時に指定することはできません qos。	整数	なし	いいえ
totalSize	ボリュームの合計サイズ (バイト)。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	作成されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリュームID	作成されたボリュームの ID。	整数
カーブ ( Curve )	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS での 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON ( オブジェクト )

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "CreateVolume",  
  "params": {  
    "name": "mysqldata",  
    "accountID": 1,  
    "totalSize": 107374182400,  
    "enable512e": false,  
    "attributes": {  
      "name1": "value1",  
      "name2": "value2",  
      "name3": "value3"  
    },  
    "qos": {  
      "minIOPS": 50,  
      "maxIOPS": 500,  
      "burstIOPS": 1500,  
      "burstTime": 60  
    }  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "curve": {  
      "4096": 100,  
      "8192": 160,  
      "16384": 270,  
      "32768": 500,  
      "65536": 1000,  
      "131072": 1950,  
      "262144": 3900,  
      "524288": 7600,  
      "1048576": 15000  
    },  
    "volume": {  
      "access": "readWrite",  
      "accountID": 1,  
      "attributes": {  
        "name1": "value1",  
        "name2": "value2",  
        "name3": "value3"  
      }  
    }  
  }  
}
```

```

        "name1": "value1",
        "name2": "value2",
        "name3": "value3"
    },
    "blockSize": 4096,
    "createTime": "2016-03-31T22:20:22Z",
    "deleteTime": "",
    "enable512e": false,
    "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:mysqldata.677",
    "name": "mysqldata",
    "purgeTime": "",
    "qos": {
        "burstIOPS": 1500,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 500,
        "minIOPS": 50
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a796179000002a5f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000006a796179000002a5",
    "sliceCount": 0,
    "status": "active",
    "totalSize": 107374182400,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [],
    "volumeID": 677,
    "volumePairs": []
},
"volumeID": 677
}
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

## 詳細情報

[GetDefaultQoS の設定](#)

## CreateBackupTarget をクリックします

を使用すると、バックアップターゲットの情報を作成および保存して、バックアップを作成するたびに再入力する必要がないようにすることができます CreateBackupTarget。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
名前	バックアップターゲットの名前。	文字列	なし	はい
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)	なし	○ (ただし空にすることも可能)

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
backupTargetID	新しいバックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。	整数

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "CreateBackupTarget",
  "params": {
    "name": "mytargetbackup"
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "backupTargetID": 1  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## DeleteQoSPolicy のように入力します

メソッドを使用すると、システムからQoSポリシーを削除できます

DeleteQoSPolicy。このポリシーで作成または変更したすべてのボリュームの QoS 設定には影響はありません。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
qosPolicyID	削除する QoS ポリシーの ID。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "id": 663,  
  "method": "DeleteQoSPolicy",  
  "params": {  
    "qoSPolicyID": 4  
  }  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 663,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## DeleteVolume

メソッドを使用すると、アクティブなボリュームを削除対象としてマークできます DeleteVolume。マークされたボリュームは、クリーンアップ間隔の経過後にパージされます（完全に削除されます）。

ボリュームの削除を要求すると、ボリュームへのアクティブな iSCSI 接続はただちに終了します。ボリュームがこの状態になっている間、接続は許可されません。マークされたボリュームは、ターゲットの検出要求では返されません。

削除対象としてマークされたボリュームの Snapshot は影響を受けません。Snapshot は、ボリュームがシステムからパージされるまで保持されます。削除対象としてマークされたボリュームで、ボリュームの一括読み取り / 書き込み処理が実行中の場合、その処理は停止します。

削除するボリュームが別のボリュームとペアになっている場合、ペアボリューム間のレプリケーションは中断されます。削除状態の間、そのボリュームのデータは転送されません。削除されたボリュームとペアになっていたリモートボリュームは PausedMisconfigured 状態になり、削除されたボリュームとの間ではデータは送受信されません。削除されたボリュームがパージされるまでは、ボリュームをリストアしてデータ転送を再開できます。削除されたボリュームがシステムからパージされると、ペアになっていたボリュームは StoppedMisconfigured 状態になり、ボリュームペアリングのステータスが削除されます。パージされたボリュームは完全に使用できなくなります。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	削除するボリュームの ID。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	削除されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム
ボリュームID	削除されたボリュームの ID。	整数
カーブ ( Curve )	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS での 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON ( オブジェクト )

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "DeleteVolume",
  "params": {
    "volumeID" : 5
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volume": {
      "access": "readWrite",
      "id": 1
    }
  }
}
```

```

"accountID": 1,
"attributes": {
    "name1": "value1",
    "name2": "value2",
    "name3": "value3"
},
"blockSize": 4096,
"createTime": "2016-03-28T16:16:13Z",
"deleteTime": "2016-03-31T22:59:42Z",
"enable512e": true,
"iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.1459181777648.5",
"name": "1459181777648",
"purgeTime": "2016-04-01T06:59:42Z",
"qos": {
    "burstIOPS": 150,
    "burstTime": 60,
    "curve": {
        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
    },
    "maxIOPS": 100,
    "minIOPS": 60
},
"scsiEUIDeviceID": "6a79617900000005f47acc0100000000",
"scsiNAADeviceID": "6f47acc100000006a79617900000005",
"sliceCount": 1,
"status": "deleted",
"totalSize": 1000341504,
"virtualVolumeID": null,
"volumeAccessGroups": [
    1
],
"volumeID": 5,
"volumePairs": []
}
}
}

```

## DeleteVolumes

メソッドを使用すると、複数（最大500）のアクティブボリュームを削除対象としてマークできます DeleteVolumes。マークされたボリュームは、クリーンアップ間隔の経過後にページされます（完全に削除されます）。

ボリュームの削除を要求すると、ボリュームへのアクティブな iSCSI 接続はただちに終了します。ボリュームが削除対象としてマークされている間、接続は許可されません。マークされたボリュームは、ターゲットの検出要求では返されません。

削除対象としてマークされたボリュームの Snapshot は影響を受けません。Snapshot は、ボリュームがシステムからページされるまで保持されます。削除対象としてマークされたボリュームで、ボリュームの一括読み取り / 書き込み処理が実行中の場合、その処理は停止します。

削除するボリュームが別のボリュームとペアになっている場合、ペアボリューム間のレプリケーションは中断されます。削除状態の間、そのボリュームのデータは転送されません。削除されたボリュームとペアになっていたリモートボリュームは PausedMisconfigured 状態になり、削除されたボリュームとの間ではデータは送受信されません。削除されたボリュームがページされるまでは、ボリュームをリストアしてデータ転送を再開できます。削除されたボリュームがシステムからページされると、ペアになっていたボリュームは StoppedMisconfigured 状態になり、ボリュームペアリングのステータスが削除されます。ページされたボリュームは完全に使用できなくなります。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。



次のパラメータのうち、少なくとも 1 つが必要です。また、どちらか一方だけを使用する必要があります（すべてのパラメータが相互に排他的です）。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリューム ID	システムから削除するボリュームの ID のリスト。	整数の配列	なし	注を参照してください。
ボリュームアクセスグループ ID	ボリュームアクセスグループ ID のリスト。このリストで指定したすべてのボリュームアクセスグループのすべてのボリュームがシステムから削除されます。	整数の配列	なし	注を参照してください。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
アカウント ID	アカウント ID のリスト。指定したアカウントのすべてのボリュームがシステムから削除されます。	整数の配列	なし	注を参照してください。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	削除されたボリュームに関する情報。	ボリューム
カーブ ( Curve )	curve は一連のキーと値のペアです。キーはバイト単位の I/O サイズです。値は、特定の I/O サイズで IOP を実行する際のコストを表します。curve は、100 IOPS での 4、096 バイトの処理セットと比較して計算されます。	JSON ( オブジェクト )

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "DeleteVolumes",
  "params": {
    "accountIDs" : [1, 2, 3]
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id" : 1,
  "result": {
    "volumes" : [ {
      "access": "readWrite",
      "accountID": 1,
      "attributes": {},
      "blockSize": 4096,
      "createTime": "2015-03-06T18:50:56Z",
      "deleteTime": "",
      "enable512e": False,
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:pzsr.vclient-030-v00001.1",
      "name": "vclient-030-v00001",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {},
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 100
      },
      "purgeTime": "",
      "sliceCount": 1,
      "scsiEUIDeviceID": "707a737200000001f47acc0100000000",
      "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000000707a737200000001",
      "status": "active",
      "totalSize": 10000003072,
      "virtualVolumeID": 5,
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumePairs": [],
      "volumeID": 1
    } ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetBackupTarget

メソッドを使用すると、作成した特定のバックアップターゲットに関する情報を取得できます GetBackupTarget。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
backupTargetID	バックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。	整数	なし	はい
名前	バックアップターゲットの名前。	文字列	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
BackupTarget	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "method": "GetBackupTarget",
  "params": {
    "backupTargetID": 1
  }
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "backupTarget": {
      "attributes" : {
        "size" : 100
      },
      "backupTargetID" : 1,
      "name" : "mytargetbackup"
    }
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetVolumeStats

メソッドを使用すると、単一のボリュームのアクティビティに関連するデータの概要を取得できます GetVolumeStats。値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	統計を収集するボリュームを指定します。	整数	なし	はい

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	ボリュームのアクティビティ情報。	ボリューム統計

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetVolumeStats",  
  "params": {  
    "volumeID": 32  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumeStats": {
      "accountID": 1,
      "actualIOPS": 0,
      "asyncDelay": null,
      "averageIOPSSize": 0,
      "burstIOPSCredit": 0,
      "clientQueueDepth": 0,
      "desiredMetadataHosts": null,
      "latencyUSec": 0,
      "metadataHosts": {
        "deadSecondaries": [],
        "liveSecondaries": [
          32
        ],
        "primary": 60
      },
      "nonZeroBlocks": 0,
      "readBytes": 0,
      "readBytesLastSample": 0,
      "readLatencyUSec": 0,
      "readOps": 0,
      "readOpsLastSample": 0,
      "samplePeriodMSec": 0,
      "throttle": 0,
      "timestamp": "2016-04-01T21:01:39.130840Z",
      "unalignedReads": 0,
      "unalignedWrites": 0,
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumeID": 1,
      "volumeSize": 5000658944,
      "volumeUtilization": 0,
      "writeBytes": 0,
      "writeBytesLastSample": 0,
      "writeLatencyUSec": 0,
      "writeOps": 0,
      "writeOpsLastSample": 0,
      "zeroBlocks": 1220864
    }
  }
}
```

## GetDefaultQoS の設定

メソッドを使用すると、新しく作成されたボリュームのデフォルトのQuality of Service (QoS；サービス品質) 値を取得できます GetDefaultQoS。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
QoS	デフォルトの QoS 値。	QoS

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetDefaultQoS",  
  "params": { },  
  "id" : 1  
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```

{
  "id" : 1,
  "result" : {
    "burstIOPS" : 15000,
    "burstTime" : 60,
    "curve" : {
      "1048576" : 15000,
      "131072" : 1900,
      "16384" : 270,
      "262144" : 3000,
      "32768" : 500,
      "4096" : 100,
      "524288" : 7500,
      "65536" : 1000,
      "8192" : 160
    },
    "maxIOPS" : 15000,
    "minIOPS" : 100
  }
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetQoSPolicy を参照してください

メソッドを使用すると、システムから特定のQoSポリシーに関する詳細を取得できます  
GetQoSPolicy。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
qosPolicyID	取得するポリシーの ID。	整数	なし	はい

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
QoS Policy のように表示	要求した QoS ポリシーの詳細。	<a href="#">QoS Policy のように表示</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetQoSPolicy",  
  "params": {  
    "qosPolicyID": 2  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "qosPolicy": {  
      "name": "bronze",  
      "qos": {  
        "burstIOPS": 15002,  
        "burstTime": 60,  
        "curve": {  
          "4096": 100,  
          "8192": 160,  
          "16384": 270,  
          "32768": 500,  
          "65536": 1000,  
          "131072": 1950,  
          "262144": 3900,  
          "524288": 7600,  
          "1048576": 15000  
        },  
        "maxIOPS": 15002,  
        "minIOPS": 51  
      },  
      "qosPolicyID": 2,  
      "volumeIDs": [  
        2  
      ]  
    }  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

10.0

## GetVolumeCount の値

メソッドを使用すると、現在システムにあるボリュームの数を取得できます  
GetVolumeCount。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
カウント	現在システムに存在するボリュームの数。	整数

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetVolumeCount",  
  "params": {},  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "count": 7  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## GetVolumeEfficiency を使用します

メソッドを使用すると、ボリュームに関する情報を取得できます GetVolumeEfficiency。容量の計算には、この API メソッドのパラメータとして指定したボリュームのみが使用されます。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	容量を計算するボリュームを指定します。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
圧縮	単一のボリュームのデータを圧縮することで節約されるスペース量。値は比率で示され、「1」はデータが圧縮されずに格納されることを意味します。	浮動小数点数
重複排除	1つのボリュームでデータを重複排除することによって節約される容量。比率として示されます。	浮動小数点数
missingVolumes	効率性に関するデータを照会できなかったボリューム。原因としては、ガベージコレクション (GC) から1時間経過していない、一時的なネットワーク接続の切断、またはGCサイクル後のサービスの再起動があります。	整数の配列
シンプロビジョニング	使用済みスペースとデータの格納用に割り当てられたスペースの比率。比率として示されます。	浮動小数点数
タイムスタンプ	GC後に効率性に関するデータが収集された最後の時刻。	ISO 8601 形式の日付文字列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "GetVolumeEfficiency",  
  "params": {  
    "volumeID": 606  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "compression": 2.001591240821456,  
    "deduplication": 1,  
    "missingVolumes": [],  
    "thinProvisioning": 1.009861932938856,  
    "timestamp": "2014-03-10T16:06:33Z"  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListActiveVolumes の場合

メソッドを使用すると、現在システムにあるアクティブボリュームのリストを取得できます ListActiveVolumes。ボリュームのリストは、ボリューム ID 順にソートされます。複数のパート（ページ）に分けて取得することもできます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ
startVolumeID	返される最初のボリューム ID。この ID のボリュームが存在しない場合は、ID 順で次に位置するボリュームがリストの先頭として使用されます。リストをページングするには、前の応答の最後のボリュームに「1」を加えたボリューム ID を渡します。	整数	0	いいえ
制限	返されるボリューム情報オブジェクトの最大数。0 (ゼロ) はすべてのボリュームを返します (無制限)。	整数	無制限	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	アクティブなボリュームのリスト。	<a href="#">ボリューム</a> アレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListActiveVolumes",
  "params": {
    "startVolumeID" : 0,
    "limit" : 1000
  },
  "id" : 1
}
```

## 応答例

この応答例は分量が多いため、補足のトピックに記載しています。

### 新規導入バージョン

9.6

## ListBackupTargets を参照します

メソッドを使用すると、作成済みのすべてのバックアップターゲットに関する情報を取得できます ListBackupTargets。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
バックアップターゲット	<p>各バックアップターゲットに返されるオブジェクト。含まれるオブジェクト：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• attributes : JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。 ( JSON オブジェクト ) 。</li> <li>• backupTargetID : バックアップターゲットに割り当てられた一意の識別子。整数</li> <li>• name : バックアップターゲットの名前。文字列</li> </ul>	JSON ( オブジェクト )

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListBackupTargets",  
  "params": {},  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "backupTargets": [  
      {  
        "attributes" : {},  
        "backupTargetID" : 1,  
        "name" : "mytargetbackup"  
      }  
    ]  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListBulkVolumeJobs

メソッドを使用すると、システムで実行中の各ボリュームの一括読み取り/書き込み処理に関する情報を取得できます ListBulkVolumeJobs。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
bulkVolumeJobs	各一括ボリュームジョブの情報の配列。	<a href="#">bulkVolumeJob</a> アレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListBulkVolumeJobs",  
  "params": {  
    },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "bulkVolumeJobs": [
      {
        "attributes": {
          "blocksPerTransfer": 1024,
          "firstPendingLba": 216064,
          "nLbas": 2441472,
          "nextLba": 226304,
          "pendingLbas": "[220160, 223232, 221184, 224256, 217088, 225280, 222208, 218112, 219136, 216064]",
          "percentComplete": 8,
          "startLba": 0
        },
        "bulkVolumeID": 2,
        "createTime": "2015-05-07T14:52:17Z",
        "elapsedTime": 44,
        "format": "native",
        "key": "eaffb0526d4fb47107061f09bfc9a806",
        "percentComplete": 8,
        "remainingTime": 506,
        "script": "bv_internal.py",
        "snapshotID": 509,
        "srcVolumeID": 3,
        "status": "running",
        "type": "read"
      }
    ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListDeletedVolumes の場合

メソッドを使用すると、削除対象としてマークされてシステムからページされたボリュームのリストを取得できます ListDeletedVolumes。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	削除されたボリュームのリスト。	ボリュームアレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListDeletedVolumes",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 2,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2018-06-24T03:13:13Z",
        "deleteTime": "2018-07-22T16:12:39Z",
        "enable512e": true,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:0oto.deletethis.23",
        "name": "deleteThis",
        "purgeTime": "2016-07-23T00:12:39Z",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "306f746f00000017f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000000306f746f00000017",
        "sliceCount": 1,
        "status": "deleted",
        "totalSize": 1396703232,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 23,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListQoS Policies の順にクリックします

メソッドを使用すると、システム上のすべてのQoSポリシーの設定をリストできます  
ListQoS Policies。

### パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
qosPolicies ページにアクセスします	各 QoS ポリシーに関する詳細のリスト。	<a href="#">QoS Policy のように表示</a> アレイ

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "id": 231,
  "method": "ListQoS Policies",
  "params": {}
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 231,
  "result": {
    "qosPolicies": [
      {
        "name": "silver",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
        }
      }
    ]
  }
}
```

```

    "curve": {
        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
    },
    "maxIOPS": 14000,
    "minIOPS": 50
},
"qosPolicyID": 1,
"volumeIDs": [
    1
],
},
{
    "name": "bronze",
    "qos": {
        "burstIOPS": 15000,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15000,
        "minIOPS": 50
},
    "qosPolicyID": 2,
    "volumeIDs": [
        2
    ]
}
]
}

```

## ListSyncJobs

メソッドを使用すると、Elementストレージクラスタで実行中の同期ジョブに関する情報を取得できます `ListSyncJobs`。スライス、クローン、ブロック、およびリモートの同期ジョブに関する情報が返されます。

## パラメータ

このメソッドには入力パラメータはありません。

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
syncJobs	システムで現在実行中の同期プロセスの詳細を示すオブジェクトのリスト。	<a href="#">syncJob</a> アレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListSyncJobs",  
  "params": { },  
  "id" : 1  
}
```

## 應答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
        "dstServiceID":36,
        "elapsedTime":289.4568382049871,
        "percentComplete":8.900523560209423,
        "remainingTime":2962.675921065957,
        "sliceID":5,
        "srcServiceID":16,
        "stage":"whole",
        "totalBytes":2002780160,
        "type":"slice"
    },
    {
        "bytesPerSecond":305461.3198607744,
        "cloneID":1,
        "currentBytes":81788928,
        "dstServiceID":16,
        "dstVolumeID":6,
        "elapsedTime":291.7847648200743,
        "nodeID":1,
        "percentComplete":8.167539267015707,
        "remainingTime":3280.708270981153,
        "sliceID":6,
        "srcServiceID":16,
        "srcVolumeID":5,
        "stage":"whole",
        "totalBytes":1001390080,
        "type":"clone"
    },
    {
        "blocksPerSecond":0,
        "branchType": "snapshot",
        "dstServiceID":8,
        "dstVolumeID":2,
        "elapsedTime":0,
        "percentComplete":0,
        "remainingTime":0,
        "sliceID":2,
        "stage":"metadata",
        "type":"remote"
    }
]
}
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumeQoSHistograms

メソッドを使用すると、1つまたは複数のボリュームのQoS使用状況のヒストグラムを生成できます `ListVolumeQoSHistograms`。これにより、ボリュームで QoS がどのように使用されているかを把握できます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリューム ID	QoS ヒストグラムを生成するボリュームを指定する、ボリューム ID のオプションのリスト。	整数の配列	なし	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
<code>qosHistograms</code> ( <code>qosHistogram</code> )	ボリュームの使用状況を示すオブジェクトのリスト。	JSON オブジェクトの配列

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeQoSHistograms",
  "params": {
    "volumeIDs": [1]
  },
  "id": 1
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "qosHistograms": [  
      {  
        "histograms": {  
          "belowMinIopsPercentages": {  
            "Bucket1To19": 2406,  
            "Bucket20To39": 3,  
            "Bucket40To59": 0,  
            "Bucket60To79": 4,  
            "Bucket80To100": 0  
          },  
          "minToMaxIopsPercentages": {  
            "Bucket101Plus": 0,  
            "Bucket1To19": 0,  
            "Bucket20To39": 0,  
            "Bucket40To59": 2,  
            "Bucket60To79": 0,  
            "Bucket80To100": 0  
          },  
          "readBlockSizes": {  
            "Bucket131072Plus": 0,  
            "Bucket16384To32767": 0,  
            "Bucket32768To65535": 0,  
            "Bucket4096To8191": 0,  
            "Bucket65536To131071": 0,  
            "Bucket8192To16383": 0  
          },  
          "targetUtilizationPercentages": {  
            "Bucket0": 134943,  
            "Bucket101Plus": 0,  
            "Bucket1To19": 2409,  
            "Bucket20To39": 4,  
            "Bucket40To59": 0,  
            "Bucket60To79": 2,  
            "Bucket80To100": 0  
          },  
          "throttlePercentages": {  
            "Bucket0": 137358,  
            "Bucket1To19": 0,  
            "Bucket20To39": 0,  
            "Bucket40To59": 0,  
            "Bucket60To79": 0,  
            "Bucket80To100": 0  
          }  
        }  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```

    },
    "writeBlockSizes": {
        "Bucket131072Plus": 0,
        "Bucket16384To32767": 0,
        "Bucket32768To65535": 0,
        "Bucket4096To8191": 0,
        "Bucket65536To131071": 0,
        "Bucket8192To16383": 0
    }
},
"timestamp": "2018-06-21T18:45:52.010844Z",
"volumeID": 1
}
]
}
}

```

## ListVolumes の場合

メソッドを使用すると、クラスタ内のボリュームのリストを取得できます ListVolumes。パラメータを使用して、リストで返すボリュームを指定できます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
アカウント	ここで指定したアカウントが所有するボリュームのみが返されます。volumeIDs パラメータと一緒に指定することはできません。	整数の配列	なし	いいえ
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
障害があります	<p>ペアリングされているボリュームまたはペアリングされていないボリュームを返します有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true : ペアリングされているすべてのボリュームを返します。</li> <li>• false : ペアリングされていないすべてのボリュームを返します。</li> </ul>	ブーリアン	なし	いいえ
制限	返されるボリューム数を設定できます。volumeIDs パラメータと一緒に指定することはできません。	整数	10, 000	いいえ
startVolumeID	ID の値が指定した値以上のボリュームのみが返されます。volumeIDs パラメータと一緒に指定することはできません。	整数	なし	いいえ
ボリューム ID	ボリューム ID のリスト。このパラメータを指定すると、他のパラメータはこのパラメータで指定したボリュームに対してのみ適用されます。accounts、startVolumeID、limit パラメータと一緒に指定することはできません。	整数の配列	いいえ	いいえ
ボリューム名	ボリューム名が一致するボリュームのオブジェクト情報のみが返されます。	文字列	いいえ	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームステータス	ステータス値が等しいボリュームのみが返されます。有効な値： <ul style="list-style-type: none"><li>作成中</li><li>スナップショット</li><li>アクティブ</li><li>削除済み</li></ul>	文字列	いいえ	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	ボリュームのリスト。	ボリュームアレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumes",
  "params": {
    "volumeIDs": [1],
    "volumeStatus": "active",
    "isPaired": "false"
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 1,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2016-03-28T14:39:05Z",
        "deleteTime": "",
        "enable512e": true,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:testvolume1.1",
        "name": "testVolume1",
        "purgeTime": "",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "6a79617900000001f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000006a79617900000001",
        "sliceCount": 1,
        "status": "active",
        "totalSize": 5000658944,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 1,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}
```

## ListVolumeStats の値

メソッドを使用すると、単一のボリューム、ボリュームのリスト、またはすべてのボリューム (volumeID パラメータを省略した場合) のアクティビティに関連するデータの概要を取得できます ListVolumeStats。測定値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ
ボリューム ID	アクティビティ情報を取得するボリュームのリスト。	整数の配列	いいえ	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	ボリュームアクティビティ情報のリスト。	ボリューム統計アレイ

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListVolumeStats",  
  "params": {  
    "volumeIDs": [1]  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volumeStats": [  
      {  
        "accountID": 1,  
        "actualIOPS": 0,  
        "asyncDelay": null,  
        "averageIOPSSize": 0,  
        "burstIOPSCredit": 30000,  
        "clientQueueDepth": 0,  
        "desiredMetadataHosts": null,  
        "latencyUSec": 0,  
        "metadataHosts": {  
          "deadSecondaries": [],  
          "liveSecondaries": [  
            47  
          ],  
          "primary": 33  
        },  
        "nonZeroBlocks": 22080699,  
        "readBytes": 657262370816,  
        "readBytesLastSample": 0,  
        "readLatencyUSec": 0,  
        "readOps": 160464446,  
        "readOpsLastSample": 0,  
        "samplePeriodMSec": 500,  
        "throttle": 0,  
        "timestamp": "2016-03-09T19:39:15.771697Z",  
        "unalignedReads": 0,  
        "unalignedWrites": 0,  
        "volumeAccessGroups": [  
      ]  
    ]  
  }  
}
```

```

    1
    ],
    "volumeID": 1,
    "volumeSize": 107374182400,
    "volumeUtilization": 0,
    "writeBytes": 219117547520,
    "writeBytesLastSample": 0,
    "writeLatencyUSec": 0,
    "writeOps": 53495495,
    "writeOpsLastSample": 0,
    "zeroBlocks": 4133701
  }
]
}
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumesForAccount を実行します

メソッドを使用すると、アカウントのアクティブなボリュームと（保留中の）削除されたボリュームをリストできます ListVolumesForAccount。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ
アカウントID	このアカウント ID が所有するすべてのボリュームが返されます。	整数	いいえ	はい

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	ボリューム情報のリスト。	ボリュームアレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListVolumesForAccount",  
  "params": {  
    "accountID": 1  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1,
  "result": {
    "volumes": [
      {
        "access": "readWrite",
        "accountID": 1,
        "attributes": {},
        "blockSize": 4096,
        "createTime": "2018-07-22T16:15:25Z",
        "deleteTime": "",
        "enable512e": false,
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:0oto.test1.25",
        "name": "test1",
        "purgeTime": "",
        "qos": {
          "burstIOPS": 15000,
          "burstTime": 60,
          "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
          },
          "maxIOPS": 15000,
          "minIOPS": 50
        },
        "scsiEUIDeviceID": "306f746f00000019f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000000306f746f00000019",
        "sliceCount": 1,
        "status": "active",
        "totalSize": 1000341504,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [],
        "volumeID": 25,
        "volumePairs": []
      }
    ]
  }
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumeStatsByAccount

メソッドを使用すると、すべてのアカウントのボリュームアクティビティに関連するデータの概要をリストでき `ListVolumeStatsByAccount` ます。値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計値です。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ
アカウント	ボリュームの統計を返すアカウント ID のリスト。省略すると、すべてのアカウントの統計が返されます。	整数の配列	なし	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	各アカウントのボリュームアクティビティ情報のリスト。* 注：この値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計を表すため、各エントリのボリューム ID メンバーは 0 です。	ボリューム統計アレイ

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListVolumeStatsByAccount",  
  "params": {"accounts": [3]},  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volumeStats": [  
      {  
        "accountID": 3,  
        "nonZeroBlocks": 155040175,  
        "readBytes": 3156273328128,  
        "readBytesLastSample": 0,  
        "readOps": 770574543,  
        "readOpsLastSample": 0,  
        "samplePeriodMSec": 500,  
        "timestamp": "2016-10-17T20:42:26.231661Z",  
        "unalignedReads": 0,  
        "unalignedWrites": 0,  
        "volumeAccessGroups": [],  
        "volumeID": 0,  
        "volumeSize": 1127428915200,  
        "writeBytes": 1051988406272,  
        "writeBytesLastSample": 0,  
        "writeOps": 256833107,  
        "writeOpsLastSample": 0,  
        "zeroBlocks": 120211025  
      }  
    ]  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumeStatsByVirtualVolume

メソッドを使用すると、仮想ボリュームに関連付けられているシステム内のすべてのボリュームのボリューム統計をリストできます `ListVolumeStatsByVirtualVolume`。統計は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
仮想ボリューム ID	情報を取得する1つ以上の仮想ボリューム ID のリスト。このパラメータを指定すると、メソッドは指定した仮想ボリュームに関する情報のみを返します。	UUID 文字列の配列	いいえ	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	システム内の各仮想ボリュームのアクティビティ情報を含むオブジェクトのリスト。	ボリューム統計アレイ

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListVolumeStatsByVirtualVolume",  
  "params": {},  
  "id": 1  
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
```

```
"id": 1,
"result": {
  "volumeStats": [
    {
      "accountID": 17,
      "actualIOPS": 0,
      "asyncDelay": null,
      "averageIOPSSize": 1074265444,
      "burstIOPSCredit": 0,
      "clientQueueDepth": 0,
      "desiredMetadataHosts": null,
      "latencyUSec": 0,
      "metadataHosts": {
        "deadSecondaries": [],
        "liveSecondaries": [
          26
        ],
        "primary": 56
      },
      "nonZeroBlocks": 36,
      "readBytes": 18366464,
      "readBytesLastSample": 0,
      "readLatencyUSec": 0,
      "readOps": 156,
      "readOpsLastSample": 0,
      "samplePeriodMSec": 500,
      "throttle": 0,
      "timestamp": "2016-10-10T17:46:35.914642Z",
      "unalignedReads": 156,
      "unalignedWrites": 185,
      "virtualVolumeID": "070ac0ba-f344-4f4c-b79c-142efa3642e8",
      "volumeAccessGroups": [],
      "volumeID": 12518,
      "volumeSize": 91271200768,
      "volumeUtilization": 0,
      "writeBytes": 23652213248,
      "writeBytesLastSample": 0,
      "writeLatencyUSec": 0,
      "writeOps": 185,
      "writeOpsLastSample": 0,
      "zeroBlocks": 22282972
    }
  ]
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumeStatsByVolume を参照してください

メソッドを使用すると ListVolumeStatsByVolume、すべてのボリュームのアクティビティに関連するデータの概要をボリューム別にリストできます。値は、ボリュームを作成したときからの累積値です。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	ボリュームアクティビティ情報のリスト。	ボリューム統計アレイ

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ListVolumeStatsByVolume",
  "params": {},
  "id" : 1
}
```

### 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volumeStats": [  
      {  
        "accountID": 3,  
        "actualIOPS": 0,  
        "asyncDelay": null,  
        "averageIOPSSize": 4096,  
        "burstIOPSCredit": 30000,  
        "clientQueueDepth": 0,  
        "desiredMetadataHosts": null,  
        "latencyUSec": 0,  
        "metadataHosts": {  
          "deadSecondaries": [],  
          "liveSecondaries": [  
            16  
          ],  
          "primary": 12  
        },  
        "nonZeroBlocks": 7499205,  
        "readBytes": 159012818944,  
        "readBytesLastSample": 0,  
        "readLatencyUSec": 0,  
        "readOps": 38821489,  
        "readOpsLastSample": 0,  
        "samplePeriodMSec": 500,  
        "throttle": 0,  
        "timestamp": "2016-10-17T20:55:31.087537Z",  
        "unalignedReads": 0,  
        "unalignedWrites": 0,  
        "volumeAccessGroups": [  
          1  
        ],  
        "volumeID": 1,  
        "volumeSize": 53687091200,  
        "volumeUtilization": 0,  
        "writeBytes": 52992585728,  
        "writeBytesLastSample": 0,  
        "writeLatencyUSec": 0,  
        "writeOps": 12937643,  
        "writeOpsLastSample": 0,  
        "zeroBlocks": 5607995  
      }  
    ]  
  }  
}
```

}

## 新規導入バージョン

9.6

## ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup

メソッドを使用すると、指定したボリュームアクセスグループのメンバーであるすべてのボリュームのアクティビティ測定値の合計をリストでき `ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup` ます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
includeVirtualVolumes などです	デフォルトでは仮想ボリュームは応答に含まれます。仮想ボリュームを除外するには、 <code>false</code> に設定します。	ブーリアン	正しい	いいえ
volumeAccessGroups	ボリュームアクティビティが返されるボリュームアクセスグループ ID の配列。省略すると、すべてのボリュームアクセスグループの統計が返されます。	整数の配列	なし	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム統計	指定したボリュームアクセスグループ内のすべてのボリュームのボリュームアクティビティ情報のリスト。 * メモ：この値はアカウントが所有するすべてのボリュームの合計を表すため、各エントリのボリューム ID メンバーは 0 です。	ボリューム統計

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ListVolumeStatsByVolumeAccessGroup",  
  "params": {"volumeAccessGroups": [1]},  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volumeStats": [  
      {  
        "accountID": 0,  
        "nonZeroBlocks": 149366393,  
        "readBytes": 3156273328128,  
        "readBytesLastSample": 0,  
        "readOps": 770574543,  
        "readOpsLastSample": 0,  
        "samplePeriodMSec": 500,  
        "timestamp": "2016-10-17T21:04:10.712370Z",  
        "unalignedReads": 0,  
        "unalignedWrites": 0,  
        "volumeAccessGroups": [  
          1  
        ],  
        "volumeID": 0,  
        "volumeSize": 1073741824000,  
        "writeBytes": 1051988406272,  
        "writeBytesLastSample": 0,  
        "writeOps": 256833107,  
        "writeOpsLastSample": 0,  
        "zeroBlocks": 112777607  
      }  
    ]  
  }  
}
```

## ModifyBackupTarget

メソッドを使用すると、バックアップターゲットの属性を変更できます  
ModifyBackupTarget。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
backupTargetID	変更するターゲットの一意の ID。	整数	なし	はい
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
名前	バックアップターゲットの新しい名前。	文字列	なし	いいえ

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

### 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "ModifyBackupTarget",
  "params": {
    "backupTargetID" : 1,
    "name": "yourtargetS3"
    "attributes" : {
      "size" : 500,
    }
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## ModifyQoSPolicy のように変更します

メソッドを使用すると、システムの既存のQoSポリシーを変更できます  
ModifyQoSPolicy。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
qosPolicyID	変更するポリシーの ID。	整数	なし	はい
名前	指定した場合、 QoS ポリシーの名前 ( gold 、 platinum 、 silver など) がこの値に変更されます。	文字列	なし	いいえ
QoS	指定した場合、この ポリシーの QoS 設定がこれらの設定に変更されます。指定できる QoS 値は一部だけで、一部の QoS 設定のみを変更できます。	QoS オブジェクト	なし	いいえ

### 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
QoS Policy のように表示	変更後の新しい QoS ポリシーの詳細。	<a href="#">QoS Policy のように表示</a>

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "id": 1950,  
  "method": "ModifyQoSPolicy",  
  "params": {  
    "qosPolicyID": 2,  
    "qos": {  
      "minIOPS": 51,  
      "maxIOPS": 15002,  
      "burstIOPS": 15002  
    }  
  }  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{
  "id": 1950,
  "result": {
    "qosPolicy": {
      "name": "bronze",
      "qos": {
        "burstIOPS": 15002,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
          "4096": 100,
          "8192": 160,
          "16384": 270,
          "32768": 500,
          "65536": 1000,
          "131072": 1950,
          "262144": 3900,
          "524288": 7600,
          "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 15002,
        "minIOPS": 51
      },
      "qosPolicyID": 2,
      "volumeIDs": [
        2
      ]
    }
  }
}
```

## 新規導入バージョン

10.0

## ModifyVolume の追加

メソッドを使用すると、既存のボリュームの設定を変更できます `ModifyVolume`。一度に 1 つのボリュームを変更できます。変更はすぐに反映されます。

ボリュームを変更するときに QoS 値を指定しない場合、変更前と同じ値が適用されます。メソッドを実行すると、新しく作成されたボリュームのデフォルトの QoS 値を取得できます `GetDefaultQoS`。

レプリケート中のボリュームのサイズを拡張する必要がある場合は、レプリケーションエラーを回避するためには次の手順で実行します。

1. replicationTarget アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。
2. ソース、つまり readWrite アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。

ターゲットボリュームとソースボリュームを必ず同じサイズにしてください。



アクセスステータスを locked または replicationTarget に変更すると、すべての既存の iSCSI 接続が終了します。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	変更するボリュームの ID。	整数	なし	はい

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
アクセス	<p>ボリュームに許可するアクセス。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>readOnly</code>：読み取り処理のみ許可されます。</li> <li>• <code>readWrite</code>：読み取りと書き込みが可能です。</li> <li>• <code>locked</code>：読み取りも書き込みもできません。指定しない場合、アクセス値は変更されません。</li> <li>• <code>replicationTarget</code>：ペアリングされている一連のボリュームのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。ボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。</li> <li>• <code>snapMirrorTarget</code>：SnapMirror プリケーションのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。</li> </ul>	文字列	なし	いいえ
アカウントID	ボリュームを再割り当てるアカウントID。指定しない場合は、以前のアカウント名が使用されます。	整数	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
associateWithQoS Policy	<p>指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>true</code> : QoS Policy ID パラメータで指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。</li> <li>• <code>false</code> : QoS Policy ID パラメータで指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けないでください。<code>false</code> の場合、QoS Policy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。</li> </ul>	ブーリアン	なし	いいえ
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
CreateTime をクリックします	新しいボリューム作成日として設定する ISO 8601 形式の日付文字列。 <code>setCreateTime</code> を <code>true</code> に設定した場合は必須です。	ISO 8601 形式の文字列	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
enableSnapMirrorRepllication	<p>ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul>	ブーリアン	正しくない	いいえ
50 サイズ	<p>ボリュームでサポートされる FIFO (First-In First-Out) スナップショットの最大数を指定します。FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。この値を現在の FIFO スナップショットカウントよりも小さく変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
minFifoSize	<p>FIFO（First-In First-Out）スナップショットだけに予約されているスナップショットスロットの数を指定します。FIFOスナップショットと非 FIFOスナップショットは同じプールを共有するため、minFifoSize パラメータは、可能な非 FIFOスナップショットの合計数と同じ量だけ減らします。この値は、現在の FIFO以外のスナップショット数と競合するように変更することはできません。</p>	整数	なし	いいえ
モード	<p>ボリュームのレプリケーションモード。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>asynch</code>：データがソースに格納されていることをシステムが確認してからターゲットに書き込みます。</li> <li>• <code>sync</code>：ソースからのデータ転送の確認応答を待たずに、ターゲットへのデータの書き込みを開始します。</li> </ul>	文字列	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
QoS	<p>このボリュームの新しい QoS 設定。指定しない場合、QoS 設定は変更されません。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• minIOPS</li> <li>• maxIOPS</li> <li>• burstIOPS</li> </ul>	QoS	なし	いいえ
qosPolicyID	指定したボリュームに適用する QoS 設定が定義されたポリシーの ID。このパラメータは、qos パラメータと一緒に指定することはできません。	整数	なし	いいえ
setCreateTime	true に設定すると、記録されているボリューム作成日が変更されます。	ブーリアン	なし	いいえ
合計サイズ	ボリュームの新しいサイズ (バイト)。1、000、000、000 は 1GB に相当します。サイズは最も近い MB 単位に切り上げられます。このパラメータは、ボリュームのサイズを拡張する場合にのみ使用できます。	整数	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	変更されたボリュームの情報を含むオブジェクト。	ボリューム

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ModifyVolume",  
  "params": {  
    "volumeID": 5,  
    "attributes": {  
      "name1": "value1",  
      "name2": "value2",  
      "name3": "value3"  
    },  
    "qos": {  
      "minIOPS": 60,  
      "maxIOPS": 100,  
      "burstIOPS": 150,  
      "burstTime": 60  
    },  
    "access": "readWrite"  
  },  
  "totalSize": 20000000000,  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volume": {  
      "access": "readWrite",  
      "accountID": 1,  
      "attributes": {  
        "name1": "value1",  
        "name2": "value2",  
        "name3": "value3"  
      },  
      "blockSize": 4096,  
      "createTime": "2016-03-28T16:16:13Z",  
      "deleteTime": "",  
      "enable512e": true,  
      "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jyay.1459181777648.5",  
      "label": "Volume 1",  
      "size": 20000000000,  
      "type": "Standard"  
    }  
  }  
}
```

```

        "name": "1459181777648",
        "purgeTime": "",
        "qos": {
            "burstIOPS": 150,
            "burstTime": 60,
            "curve": {
                "4096": 100,
                "8192": 160,
                "16384": 270,
                "32768": 500,
                "65536": 1000,
                "131072": 1950,
                "262144": 3900,
                "524288": 7600,
                "1048576": 15000
            },
            "maxIOPS": 100,
            "minIOPS": 60
        },
        "scsiEUIDeviceID": "6a79617900000005f47acc0100000000",
        "scsiNAADeviceID": "6f47acc100000006a79617900000005",
        "sliceCount": 1,
        "status": "active",
        "totalSize": 1000341504,
        "virtualVolumeID": null,
        "volumeAccessGroups": [
            1
        ],
        "volumeID": 5,
        "volumePairs": []
    }
}
}
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

[GetDefaultQoS の設定](#)

## ModifyVolumes の場合に使用でき

メソッドを使用すると、最大500個の既存ボリュームを一度に設定でき `ModifyVolumes`

ます。変更はすぐに反映されます。指定したいいずれかのボリュームの変更に失敗した場合、`ModifyVolumes`指定したボリュームは変更されません。

ボリュームを変更するときに QoS 値を指定しない場合、各ボリュームの QoS 値は変更されません。メソッドを実行すると、新しく作成されたボリュームのデフォルトの QoS 値を取得できます `GetDefaultQoS`。

レプリケート中のボリュームのサイズを拡張する必要がある場合は、レプリケーションエラーを回避するため次の手順で実行します。

1. `replicationTarget` アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。
2. ソース、つまり `readWrite` アクセスが許可されたボリュームのサイズを拡張します。

ターゲットボリュームとソースボリュームを必ず同じサイズにしてください。



アクセスステータスを `locked` または `replicationTarget` に変更すると、すべての既存の iSCSI 接続が終了します。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
----	------	-----	--------	----

アクセス	<p>ボリュームに許可するアクセス。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>readOnly</code>：読み取り処理のみ許可されます。</li> <li>• <code>readWrite</code>：読み取りと書き込みが可能です。</li> <li>• <code>locked</code>：読み取りも書き込みもできません。指定しない場合、アクセス値は変更されません。</li> <li>• <code>replicationTarget</code>：ペアリングされている一連のボリュームのターゲットボリュームとしてボリュームを指定します。ボリュームがペアリングされていない場合、アクセスステータスは <code>locked</code> になります。値を指定しない場合、アクセス値は変更されません。</li> </ul>	文字列	なし	いいえ
アカウントID	ボリュームを再割り当てるアカウントID。指定しない場合は、以前のアカウント名が使用されます。	整数	なし	いいえ

associateWithQoS Policy	<p>指定した QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• true : QoS Policy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けます。</li> <li>• false : QoS Policy パラメータで指定された QoS ポリシーにボリュームを関連付けない。false の場合、QoS Policy パラメータで QoS ポリシーを指定したかどうかに関係なく、既存のポリシーの関連付けが削除されます。</li> </ul>	ブーリアン	なし	いいえ
属性	JSON オブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
CreateTime をクリックします	新しいボリューム作成日として設定する ISO 8601 形式の日付文字列。setCreateTime を true に設定した場合は必須です。	ISO 8601 形式の文字列	なし	いいえ
enableSnapMirrorRe plication	ボリュームを SnapMirror エンドポイントでのレプリケーションに使用できるかどうかを指定します。有効な値：	<ul style="list-style-type: none"> <li>• true</li> <li>• false</li> </ul>	ブーリアン	正しくない

50 サイズ	ボリュームでサポートされる FIFO ( First-In First-Out ) スナップショットの最大数を指定します。 FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットはどちらも、ボリューム上で使用可能なスナップショットスロットの同じプールを使用することに注意してください。このオプションを使用して、使用可能なスナップショットスロットの FIFO スナップショットの消費を制限します。この値を現在の FIFO スナップショットカウントよりも小さく変更することはできません。	整数	なし	いいえ
minFifoSize	FIFO ( First-In First-Out ) スナップショットだけに予約されているスナップショットスロットの数を指定します。 FIFO スナップショットと非 FIFO スナップショットは同じプールを共有するため、minFifoSize パラメータは、可能な非 FIFO スナップショットの合計数と同じ量だけ減らします。この値は、現在の FIFO 以外のスナップショット数と競合するように変更することはできません。	整数	なし	いいえ

モード	<p>ボリュームのレプリケーションモード。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>asynch</code>：データがソースに格納されていることをシステムが確認してからターゲットに書き込みます。</li> <li>• <code>sync</code>：ソースからのデータ転送の確認応答を待たずに、ターゲットへのデータの書き込みを開始します。</li> </ul>	文字列	なし	いいえ
QoS	<p>ボリュームの新しいQoS設定。指定しない場合、QoS設定は変更されません。有効な値：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>minIOPS</code></li> <li>• <code>maxIOPS</code></li> <li>• <code>burstIOPS</code></li> </ul>	QoS	なし	いいえ
<code>qosPolicyID</code>	指定したボリュームに適用するQoS設定が定義されたポリシーのID。このパラメータは、 <code>qos</code> パラメータと一緒に指定することはできません。	整数	なし	いいえ
<code>setCreateTime</code>	<code>true</code> に設定すると、記録されているボリューム作成日が変更されます。	ブーリアン	なし	いいえ

合計サイズ	ボリュームの新しいサイズ（バイト）。1、000、000、000は1GBに相当します。サイズは最も近いMB単位に切り上げられます。このパラメータは、ボリュームのサイズを拡張する場合にのみ使用できます。	整数	なし	いいえ
ボリューム ID	変更するボリュームのIDのリスト。	整数の配列	なし	はい

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ボリューム	変更された各ボリュームの情報を含むオブジェクトの配列。	<a href="#">ボリューム</a> アレイ

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "ModifyVolumes",  
  "params": {  
    "volumeIDs": [2,3],  
    "attributes": {  
      "name1": "value1",  
      "name2": "value2",  
      "name3": "value3"  
    },  
    "qos": {  
      "minIOPS": 50,  
      "maxIOPS": 100,  
      "burstIOPS": 150,  
      "burstTime": 60  
    },  
    "access" : "replicationTarget"  
  },  
  "totalSize": 80000000000,  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "volumes": [  
      {  
        "access": "replicationTarget",  
        "accountID": 1,  
        "attributes": {  
          "name1": "value1",  
          "name2": "value2",  
          "name3": "value3"  
        },  
        "blockSize": 4096,  
        "createTime": "2016-04-06T17:25:13Z",  
        "deleteTime": "",  
        "enable512e": false,  
        "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jo73.2",  
        "name": "doctest1",  
        "purgeTime": ""  
      }  
    ]  
  }  
}
```

```

    "qos": {
        "burstIOPS": 150,
        "burstTime": 60,
        "curve": {
            "4096": 100,
            "8192": 160,
            "16384": 270,
            "32768": 500,
            "65536": 1000,
            "131072": 1950,
            "262144": 3900,
            "524288": 7600,
            "1048576": 15000
        },
        "maxIOPS": 100,
        "minIOPS": 50
    },
    "scsiEUIDeviceID": "6a6f373300000002f47acc0100000000",
    "scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000006a6f373300000002",
    "sliceCount": 1,
    "status": "active",
    "totalSize": 1000341504,
    "virtualVolumeID": null,
    "volumeAccessGroups": [],
    "volumeID": 2,
    "volumePairs": []
},
{
    "access": "replicationTarget",
    "accountID": 1,
    "attributes": {
        "name1": "value1",
        "name2": "value2",
        "name3": "value3"
    },
    "blockSize": 4096,
    "createTime": "2016-04-06T17:26:31Z",
    "deleteTime": "",
    "enable512e": false,
    "iqn": "iqn.2010-01.com.solidfire:jo73.3",
    "name": "doctest2",
    "purgeTime": "",
    "qos": {
        "burstIOPS": 150,
        "burstTime": 60,
        "curve": {

```

```

        "4096": 100,
        "8192": 160,
        "16384": 270,
        "32768": 500,
        "65536": 1000,
        "131072": 1950,
        "262144": 3900,
        "524288": 7600,
        "1048576": 15000
    },
    "maxIOPS": 100,
    "minIOPS": 50
},
"scsiEUIDeviceID": "6a6f373300000003f47acc0100000000",
"scsiNAADeviceID": "6f47acc1000000006a6f373300000003",
"sliceCount": 1,
"status": "active",
"totalSize": 1000341504,
"virtualVolumeID": null,
"volumeAccessGroups": [],
"volumeID": 3,
"volumePairs": []
}
]
}
}

```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

[GetDefaultQoS の設定](#)

## PurgeDeletedVolume のこと

メソッドを使用すると、削除されたボリュームをただちに完全にページできます PurgeDeletedVolume。ページする前に、を使用してボリュームを削除する必要があります DeleteVolume。

ボリュームは一定期間の経過後に自動的にページされるため、通常はこのメソッドを使用する必要はありません。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	ページするボリュームの ID。	整数	いいえ	はい

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "PurgeDeletedVolume",  
  "params": {  
    "volumeID" : 5  
  },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

[DeleteVolume](#)

## PurgeDeletedVolumes の場合

メソッドを使用すると PurgeDeletedVolumes、削除されたボリュームをただちに完

全にページできます。このメソッドを使用すると、一度に最大500個のボリュームをページできます。

ページする前に、を使用してボリュームを削除する必要があります `DeleteVolumes`。ボリュームは一定期間の経過後に自動的にページされるため、通常はこのメソッドを使用する必要はありません。

一度に大量のボリュームをページする場合や、各ボリュームをページする際に多数の Snapshot が関連付けられている場合は、メソッドが失敗してエラー「`xDBConnectionLoss`」が返されることがあります。この場合は、ボリューム数を減らしてもう一度メソッド呼び出しを実行してください。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリューム ID	システムからページするボリュームの ID のリスト。	整数の配列	いいえ	いいえ
アカウント ID	アカウント ID のリスト。指定したすべてのアカウントのすべてのボリュームがシステムからページされます。	整数の配列	いいえ	いいえ
ボリュームアクセスグループ ID	ボリュームアクセスグループ ID のリスト。指定したすべてのボリュームアクセスグループのすべてのボリュームがシステムからページされます。	整数の配列	いいえ	いいえ

• 注：\* メソッド呼び出しごとに、上記のパラメータのうち 1 つだけを指定できます。複数のパラメータを指定した場合やパラメータを指定しなかった場合は、エラーが発生します。

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "PurgeDeletedVolumes",  
  "params": {  
    "accountIDs" : [1, 2, 3]  
  },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## 詳細情報

[DeleteVolumes](#)

# RemoveBackupTarget

メソッドを使用すると、バックアップターゲットを削除できます  
RemoveBackupTarget。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
backupTargetID	削除するターゲットの一意の ID。	整数	なし	はい

## 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "RemoveBackupTarget",  
  "params": {  
    "backupTargetID": 1  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## RestoreDeletedVolume

メソッドを使用すると、削除したボリュームを再びアクティブとしてマークできます `RestoreDeletedVolume`。この操作により、ボリュームはただちに iSCSI 接続で使用できるようになります。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
ボリュームID	リストアする削除済みボリュームの ID 。	整数	なし	はい

### 戻り値

このメソッドには戻り値はありません。

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "RestoreDeletedVolume",  
  "params": {  
    "volumeID" : 5  
  },  
  "id" : 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result": {}  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## SetDefaultQoS の設定

メソッドを使用すると、ボリュームのデフォルトのQoS値（1秒あたりの入出力処理数（IOPS）で測定）を設定できます SetDefaultQoS。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
Min IOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最小 IOPS。	整数	なし	いいえ
maxIOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最大 IOPS。	整数	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
burstIOPS	短時間のバースト時に許容される最大 IOPS。	整数	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
Min IOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最小 IOPS。	整数
maxIOPS	クラスタからボリュームに提供される平常時の最大 IOPS。	整数
burstIOPS	短時間のバースト時に許容される最大 IOPS。	整数

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "SetDefaultQoS",
  "params": {
    "burstIOPS":8000,
    "maxIOPS":1000,
    "minIOPS":200
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id":1,  
  "result": {  
    "burstIOPS":8000,  
    "maxIOPS":1000,  
    "minIOPS":200  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## StartBulkVolumeRead

メソッドを使用すると、指定したボリュームの一括ボリューム読み取りセッションを開始できます StartBulkVolumeRead。

1つのボリュームで同時に実行できる一括ボリュームプロセスは2つだけです。セッションを初期化すると、SolidFireストレージボリュームからデータが読み取られ、外部のバックアップソースに保存されます。外部データは、Elementストレージノードで実行されているWebサーバからアクセスされます。外部データアクセスに関するサーバ操作の情報は、ストレージシステムで実行中のスクリプトによって渡されます。

ボリュームの一括読み取り処理の開始時にボリュームのSnapshotが作成され、読み取りが完了すると削除されます。また、SnapshotのIDをパラメータとして入力し、ボリュームのSnapshotを読み取ることもできます。以前のSnapshotを読み取った場合、ボリュームの新しいSnapshotは作成されず、読み取りが完了したときに以前のSnapshotも削除されません。



既存のSnapshotのIDを指定しない場合、新しいSnapshotが作成されます。Snapshotを作成できるのは、クラスタフルが「ステージ2」または「ステージ3」の場合です。クラスタフルが「ステージ4」または「ステージ5」の場合、Snapshotは作成されません。

## パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
の形式で入力し	<p>ボリュームデータの形式。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>uncompressed : ボリュームのすべてのバイトが圧縮なしで返されます。</li> <li>native : 不透明なデータが返されます。サイズは小さく、以降のボリュームの一括書き込みでより効率的に格納および書き込みが行われます。</li> </ul>	文字列	なし	はい
ボリュームID	読み取るボリュームの ID。	整数	なし	はい
Snapshot ID	ボリュームの一括読み取りで使用する、以前に作成された Snapshot の ID。ID を入力しない場合は、現在のアクティブボリュームイメージの Snapshot が作成されます。	整数	なし	いいえ
スクリプト	実行可能スクリプトの名前。スクリプト名を指定しない場合は、Element ストレージノードにアクセスするためにキーと URL が必要です。スクリプトはプライマリノードに対して実行され、キーと URL がスクリプトに返されます。これにより、ローカル Web サーバにアクセスできるようになります。	文字列	なし	いいえ

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
scriptParameters	スクリプトに渡す JSON パラメータ。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
属性	JSONオブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。 <a href="#">"詳細"</a> です。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
asyncHandle	完了を確認する非同期プロセスの ID。	整数
キー	セッションを一意に識別する判読不明なキー。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。	文字列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{
  "method": "StartBulkVolumeRead",
  "params": {
    "volumeID" : 5,
    "format"   : "native",
    "snapshotID" : 2
  },
  "id": 1
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result" : {  
    "asyncHandle" : 1,  
    "key" : "11eed8f086539205beeaadd981aad130",  
    "url" : "https://127.0.0.1:44000/"  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## StartBulkVolumeWrite

メソッドを使用すると、指定したボリュームの一括ボリューム書き込みセッションを開始できます `StartBulkVolumeWrite`。

1つのボリュームで同時に実行できる一括ボリュームプロセスは2つだけです。セッションを初期化すると、外部バックアップ元から Element ストレージボリュームにデータが書き込まれます。外部データは、Element ストレージノードで実行されている Web サーバからアクセスされます。外部データアクセスに関するサーバ操作の情報は、ストレージシステムで実行中のスクリプトによって渡されます。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
の形式で入力し	<p>ボリュームデータの形式。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>uncompressed : ボリュームのすべてのバイトが圧縮なしで返されます。</li> <li>native : 不透明なデータが返されます。サイズは小さく、以降のボリュームの一括書き込みでより効率的に格納および書き込みが行われます。</li> </ul>	文字列	なし	はい
ボリュームID	書き込むボリュームの ID。	整数	なし	はい
スクリプト	実行可能スクリプトの名前。スクリプト名を指定しない場合は、Element ストレージノードにアクセスするためにキーと URL が必要です。スクリプトはプライマリノードに対して実行され、キーと URL がスクリプトに返されます。これにより、ローカル Web サーバにアクセスできるようになります。	文字列	なし	いいえ
scriptParameters	スクリプトに渡す JSON パラメータ。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ
属性	JSONオブジェクト形式の名前と値のペアのリスト。"詳細"です。	JSON (オブジェクト)	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
asyncHandle	完了を確認する非同期プロセスの ID。	整数
キー	セッションを一意に識別する判読不明なキー。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。	文字列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "StartBulkVolumeWrite",  
  "params": {  
    "volumeID": 5,  
    "format": "native",  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id": 1,  
  "result": {  
    "asyncHandle": 1,  
    "key": "11eed8f086539205beeaadd981aad130",  
    "url": "https://127.0.0.1:44000/"  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

## UpdateBulkVolumeStatus

メソッドを使用すると、メソッドまたは `StartBulkVolumeWrite` メソッドで開始した一括ボリュームジョブのステータスを更新 `StartBulkVolumeRead` できます `UpdateBulkVolumeStatus`。

### パラメータ

このメソッドの入力パラメータは次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ	デフォルト値	必須
キー	また は <code>StartBulkVolume</code> <code>Write</code> セッションの 初期化中に割り当て られたキー — <code>StartBulkVolumeR</code> <code>ead</code> 。	文字列	なし	はい
ステータス	指定した一括ボリュ ームジョブのステー タスが設定されま す。有効な値：  • <code>running</code> : アク ティブなジョ ブ。  • <code>complete</code> : 完了 したジョブ。  • <code>failed</code> : 失敗し たジョブ。	文字列	なし	はい
PercentComplete	一括ボリュームジョ ブの進捗状況のパー 센テージ。	文字列	なし	いいえ
メッセージ	ジョブが完了したと きの一括ボリューム ジョブのステータス を返します。	文字列	なし	いいえ
属性	JSON 属性。一括ボ リュームジョブの内 容を更新します。	JSON (オブジェク ト)	なし	いいえ

## 戻り値

このメソッドの戻り値は次のとおりです。

名前	製品説明	タイプ
ステータス	要求されたセッションのステータス。ステータスは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>・シュンヒ</li><li>・アクティブ</li><li>・完了</li><li>・失敗</li></ul>	文字列
属性	メソッド呼び出しで指定された属性を返します。値は変更の有無にかかわらず返されます。	文字列
URL	ノードの Web サーバにアクセスするための URL。セッションがアクティブな場合にのみ提供されます。	文字列

## 要求例

このメソッドの要求例を次に示します。

```
{  
  "method": "UpdateBulkVolumeStatus",  
  "params": {  
    "key": "0b2f532123225febda2625f55dcb0448",  
    "status": "running"  
  },  
  "id": 1  
}
```

## 応答例

このメソッドの応答例を次に示します。

```
{  
  "id" : 1,  
  "result": {  
    "status" : "running",  
    "url" : "https://10.10.23.47:8443/"  
  }  
}
```

## 新規導入バージョン

9.6

### 詳細情報

- [StartBulkVolumeRead](#)
- [StartBulkVolumeWrite](#)

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。